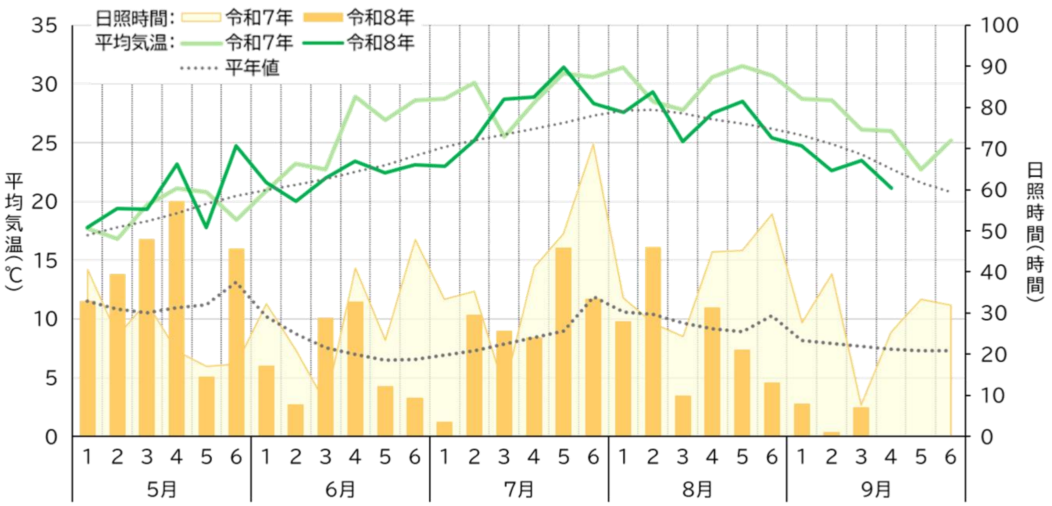
令和8年9月24日
農業技術研究センター

適期収穫を徹底しましょう！（９月）

気象の推移

5月～9月の平均気温と日照時間(半旬ごと・熊谷)・(令和7年、令和8年)



８月、９月の平均気温は平年並~やや低く、日照時間は平年に比べ少なく推移しており、水稲では登熟に時間がかかっています。

気象庁の1カ月予報では気温が平年より高いとしていますが曇りや雨の日が多い見込みです。刈り遅れにならないよう計画的に作業を進めましょう。

収穫適期判断のポイント

１ 登熟積算気温

出穂期を起点に毎日の平均気温を合計した「登熟積算気温」が、品種ごとの基準に到達すると収穫適期となります。

２ 帯緑色籾割合

登熟が進むと、穂が黄化しますが、穂の中で少しでも緑色が残っている籾の割合が品種ごとの基準に到達すると刈り取り適期となります。本年は穂の黄化が遅れる傾向がみられます。出穂後日数や籾水分なども考慮して、総合的に判断しましょう。

品　種 （登熟積算気温の基準値）	帯緑籾 割合（％）	出穂期	収穫適期のめやす
キヌヒカリ （積算気温950～1,200℃）	35～15	8月15日	9月22日 ～ 10月4日 頃
		8月20日	9月28日 ～ 10月10日 頃
		8月25日	10月5日 ～ 10月18日 頃
彩のきずな （積算気温900～1,100℃）	40～15	8月15日	9月20日 ～ 9月29日 頃
		8月20日	9月26日 ～ 10月5日 頃
		8月25日	10月3日 ～ 10月12日 頃
えみほころ （積算気温1,000～1,200℃）	20～5	8月15日	9月24日 ～ 10月4日 頃
		8月20日	10月1日 ～ 10月10日 頃
		8月25日	10月7日 ～ 10月18日 頃
彩のかがやき （積算気温1,010～1,250℃）	55～25	8月15日	9月25日 ～ 10月6日 頃
		8月20日	10月1日 ～ 10月13日 頃
		8月25日	10月8日 ～ 10月20日 頃

※収穫適期のめやすは農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」による予測値です（９月17日現在・熊谷気象台データ）。今後の気象状況により前後することがあります。

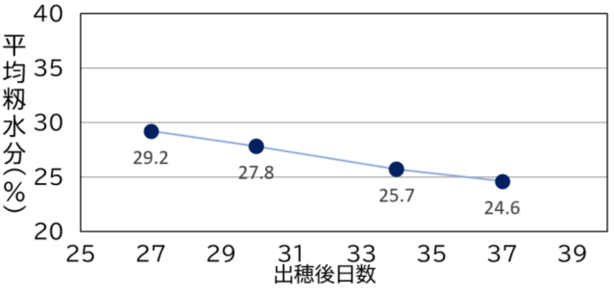
３　籾水分

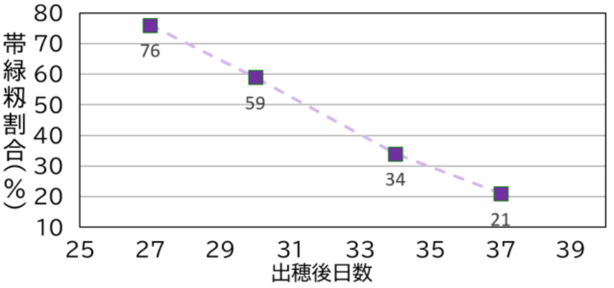
籾の水分が25%になったら収穫を開始しましょう。
本年の玉井試験場の籾水分等の測定結果は以下のとおりです。

「彩のきずな」（6月5日植）の測定結果

6月5日植 彩のきずな	測定日	出穂後日数（日）	積算気温（℃）	帯緑籾割合(%)	籾水分（%）
8月11日出穂	9月7日	27	676	76	29.2
	9月10日	30	748	59	27.8
	9月14日	34	835	34	25.7
	9月17日	37	907	21	24.6

ほ場条件や気象状況により籾水分や帯緑籾割合の低下の速度は異なります。参考としてください。





【参考】 籾水分、帯緑籾割合の推移
（6月５日植　彩のきずな　2026年）

ほ場管理のポイント

１　ほ場の水管理

落水は出穂後30日が経過してから実施します。
収穫期近くになっても天候不順によりほ場が乾きにくい場合には、速やかに排水できるよう、暗きょの栓や水尻を開け、滞水している場合は溝切りを行うなどして、天候の回復後、すぐに作業ができるよう準備しましょう。

２　倒伏、穂発芽への対応

倒伏や穂発芽が懸念されるほ場は、優先して収穫するようスケジュールを組みましょう。
すでに倒伏、穂発芽が発生している場合は、刈分けを行い品質の低下を防ぎましょう。

乾燥・調製作業のポイント

１　乾燥を丁寧に

仕上がり水分は14.5～15.0%を目標としますが、急激な乾燥や過乾燥は胴割粒が発生し、品質低下につながります。
籾の張り込み後、半日から1日程度は送風のみを行い、籾水分のばらつきをならしてから乾燥工程に移ると、過乾燥粒が減少し品質と食味の低下が防げます。籾水分が20%以上の場合は、送風温度を40℃以下とし、水分が20%を下回ってから温度を上げます。

２　品種に応じた籾すり作業

「えみほころ」は粒厚が厚い傾向にあります。
また、出荷品に籾の混入が多いため、検査等級が落ちている事例も見受けられます
品種や乾燥ロットごとにロール調整を行いましょう。

埼玉県マスコット「コバトン」